

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2016.5.21)

河口無線で開催されたネットワークジャパンによるクアドラルのスピーカー「MONTAN-VIII」とサウンドマジックのガラス製オーディオラックの試聴会に行ってきました。

<使用機材>

以下のようなラインアップで試聴会が計画されました。



クアドラル スピーカーシステム MONTAN-VIII ¥1,404,000 (ペア)



註：実際には使用せず

サウンドマジック オーディオラック HF-04LB ¥59,400



LUXMAN SACD プレーヤー D-08u ¥1.188,000



ラックスマン プリアンプ C-900U ¥1,188,000



ラックスマン パワーアンプ M-900U ¥1,188,000



ラックスマン ベルトドライブプレーヤー PD-171A ¥534,600

<試聴の経過>



当日のセッティング



ラックのセッティング

まず、最初にアナログでアカペラがかかりましたが、ボーカルが自然で通りの良い音でした。カートリッジはマイソニックのハイエンドモデルです。

ここでいきなりラックの実験に入り、LUXMANのD-08uのラックへの載せ替えが始まりました。事前のアナウンスでは上掲の木製のラックということでしたが、実際には防弾ガラス製の発売前の新製品が使われ、D-08uのラックのみを替えてみるという実験です。実験は3枚の合わせ防弾ガラス製→MDF製→単板の強化ガラス製の順に女性ボーカルを聴いていきましたが、防弾ガラス製が非常にクリアで細かい声の表情がよく出ていました。MDF製は焦点がぼやけたようになりましたし、強化ガ

ラス製はMDF製より改善するものの防弾ガラス製には及びませんでした。防弾ガラスの強度がどのくらいのものか1Kg鉄球を肩の高さから落としてみるデモを挟んで、強化ガラス製から防弾ガラス製に戻してみましたが、すっきりと抜けが良く、低音のしまりがよいことがよく分かりました。ちょうど当日発売のAA誌No.161のP199に試聴記事が出ていますが、そのとおりの印象でした。

ここからは再びアナログに戻って、ジャズ、クラシックのオーケストラ、ロック、ジャズ、クラシックのソプラノの歌曲と聴いていきました。オーケストラでは定位と音の分離がよく、楽器の質感や音場感も良く出ていましたし、ソプラノは透明感のある声の質感が良く出ていました。また、ジャズではクリアーで強調感のない演奏が聴けましたし、ロックでは切れ味の良い音でした。

さらに、ダイレクトカッティングのジャズ、Jポップ、女性のアカペラの合唱と続き、ゼルキンの皇帝で締めくくられました。ゼルキンのピアノは非常に自然な音でした。防弾ガラスの板厚の選定、合せガラスにする枚数、間に挟むフィルムの選定などについて試行錯誤を重ねながら、市販仕様を決めたとのことで、デモは8mmの2枚で6mmの1枚を挟んだ3枚の合わせガラスが使用されました。問題は重量で3枚の合わせガラスが1枚20Kgもするとのことでした。剛性の高い防弾ガラスと微振動をダンプするフィルムの合わせガラスの構成が、上記の効果を生んでいるものと思われます。発売は来月とのことでホームページには予告だけが出ていますが、上掲のAA誌の記事が参考になるかと思います。

<http://network-jpn.com/soundmagic/modules/bulletin/>

クアドラルのスピーカーはドイツでは老舗になっており高い評価を受けているようで、音楽ジャンルを問わず、柔軟な再生能力があることを示していました。リボンツイーターがクラシックを聴くのに倍音領域の再現に効果を発揮していたと思います。

<まとめ>

サウンドマジックの防弾ガラス製オーディオラックは予想以上の効果がありましたし、クアドラルのスピーカーは、ラックの音の違いを明瞭に聴き分けることができました。ラックだけでなく、ガラス板のばら売りもあるとのことで導入を検討してみたいと思っております。

以上